

久保泉町ガイドマップ

久保泉町の概況

久保泉町は佐賀市の東北端に位置し、北は神埼市脊振町、東は同市西郷、西および南は佐賀市金立町に接した南北7.1km、東西2.9kmの短冊形地区です。神埼市の吉野ヶ里遺跡にも近く、町内には丸山古墳、関行丸前方後円墳などの古代遺跡が散在。国指定天然記念物「えひめあやめ」の県内唯一の自生地・帯隈山周辺には「神籠石」列石史跡があります。川久保の白鬚神社に伝わる「田楽」は、貴重な民俗芸能で国重要無形文化財に指定され、毎年10月18、19両日に奉納されています。上和泉・龍田寺の「普賢延命菩薩像」は国の重要文化財、川久保下分の妙福寺の「大日如来像」は県重要文化財です。また、妙福寺境内には川久保が生んだ九州三大歌人の一人・中島哀浪の代表歌「柿もぐと木にのぼりたる日和なりはろばろとして脊振山みゆ」の歌碑があります。

① 国天然記念物「えひめあやめ」自生南限地

「えひめあやめ」は、3月下旬から4月上旬にかけて紫色のかわいい花を咲かせる草丈10cm内外の可憐な草花です。久保泉町川久保の里山・帯隈山のふもとに咲き継ぐ国の天然記念物で、自生地一帯では毎春「えひめあやめまつり」が開かれています。この植物は、中国・朝鮮半島を始め日本では山口県以西の西日本に限って自生しています。はるか太古の氷河期に日本列島と大陸が陸続きになり、動植物が南下してきたことを証明する「大陸系遺存植物」で学術上貴重な植物です。大正14年に国が西日本各地の自生地5カ所を「えひめあやめ自生南限地」として国天然記念物に指定、放置すれば絶滅してしまう恐れがあるのを、久保泉町民挙げて保全会を組織して大切に保護育成しています。



② 帯隈山・神籠石(こうごい)〔国指定史跡〕

久保泉町川久保の里山・帯隈山(177.3m)の頂上から北40mにある門跡を基点として、左右に大きな巴型・勾玉状に展開した大列石線が約3km帯のように連なっています。列石の石と石は密着し前面と上面は平たく削られ、傾斜地はひし形に、曲がりや前面をわん曲させ、谷には2m角ぐらいの大石を組んで水門を作り、丘の上の曲がりには門跡らしいものが設けられています。この帯隈山・神籠石は昭和26年のため池築造の際に列石の一部が発見され、後の発掘調査で全貌が明らかにされました。祭祀遺跡か山城かの二説の論争が行われていましたが、近年の調査結果から朝鮮式山城であることが定説化しています。



③ 関行丸古墳〔県史跡〕

関行丸古墳は町内に残っている唯一の前方後円墳で、県道佐賀一脊振線沿いの上分三地区に標識と説明板が設置されています。6世紀初頭ごろの築造とされ、前方部長さ20m・幅13m・高さ1m、後円部は径35m・高さ4.5m。後円部は二段構築で周濠があったと見られています。副葬品は鏡4面、金銅製冠帽、貝輪、勾玉、管玉などで、出土品は「県重要文化財の考古資料」に指定され県立博物館に保管されています。



④ 白鬚神社の田楽〔国重要無形文化財〕

川久保宮分の白鬚神社は、平安末期に近江国・白鬚大明神の分霊を勧請した古社と伝えられ、その際に勧請奉仕した苗字に「丸」の字を持つ十九家によって奉納された田楽が連綿と今に伝えられているものです。丸持の家といわれた十九家の私祭(丸祭)の古式が伝承され、毎年10月18、19の両日、川久保集落の人たちによって奉納されています。この田楽は一種の稚児田楽で、はなかため・すってんてん・ささらつき・かけうち・笛の役から成り、鳥居の前に敷き詰められたゴザの上で素朴で緩慢な所作の舞楽が繰り広げられます。



⑤ 勝宿神社〔市重文建造物〕

県道佐賀一脊振線沿い上分二の馬責馬場突き当たり、高速道陸橋下にあり川久保領主だった神代勝利をはじめ歴代神代一族を祀る神社。社伝によると江戸初期に建立されたといわれ、本殿は一間社流造りの小規模建築ですが、木彫技術の巧みさ屋根の形状など調和のとれた建造物として伝わっています。神代勝利は武勇にすぐれ神埼・佐賀・小城の山内を領し、龍造寺と対抗していましたが、その子長良の代に鍋島家と姻戚となり、神代家はその後は佐賀藩の宿老として明治維新まで川久保一帯を支配していました。



⑥ 神籠池(こうごいけ)

藩政初期に神代家の支配地となった川久保一帯は水に恵まれず、しばしば早ばつに見舞われ、水源としてのため池確保が待たれていました。昭和14年の未曾有の早ばつを機に灌漑用水ため池の造成機運が盛り上がり、同16年によりやく着工補助の約束を得たが戦中戦後の混乱もあって完成したのは8年後の同24年で受益面積は約500haとされています。工事中発見された神籠石にちなんで「神籠池」と命名された。



⑦ 慈音院と婦人坐像

川久保の6代邑主神代直長(鍋島初代藩主勝茂の末子)は娘「於成姫」を北茂安・白石鍋島家へ嫁がせたが、難産のため延宝4年(1676)18歳で亡くなった。父直長は娘の早世を悼み慈音院を建立、於成姫の坐像を刻み本尊の聖観世音菩薩の胎内に納めました。坐像は高さ21cmの木彫彩色で本尊とともに安産の仏として信仰されています。この寺は曹洞禅寺で直長の法号観世を山院号に娘の法号慈音院を寺号として、観世山慈音院と称されています。2月には梅、3月末からは桜の並木が参道を彩ってくれます。



⑧ 文殊台、磨崖仏(まがいぶつ)

慈音院の右手の山道を川の音伝いに登ると二流れの滝があり、不動尊を祀ってあるので「不動の滝」といいます。滝の左手の道を西へ登ると「大方広佛華嚴経」と書かれた巨石があります。その裏手の山に「文殊菩薩像」が安置され文殊台と呼ばれています。標高約200mで、佐賀平野が一望できる見晴らしのいいところです。不動の滝から流れに沿って左手の道を約200m登ると岩肌を伝い流れる「観音の滝」があります。観音の滝左手の大きな岩に、高さ1.5mほどの「如意輪観音像」を彫り込んだ磨崖仏がみえます。コンクリート造りの籠もり堂があって、ちょっと見えにくいですが、首を右に傾け左ひざを立てておられる姿が彫りこまれています。



⑨ 御霊屋と松陰寺

川久保邑主神代家1万石の菩提寺松陰寺は、今は西原一の竹林の中にありますが、元は鈴隈山南麓御霊屋下にありました。鍋島初代藩主勝茂の娘で神代5代邑主常利の妻だった松陰大師が、先祖菩提のため仏殿を建立し匡王山松陰寺と号しました。万治年間(1658年ごろ)に同寺を建て、奥に父母、夫、子夫妻の墓碑を御霊屋として築造したそうです。ここに神代家初代勝利、2代長良、3代家良らの墓を改葬、墓石は見事な御影石で壮大な墓所となっています。地区民により今でも墓所掃除や御霊屋祭が行われています。



⑩ 獣類供養塔(別名ししん塔)

川久保西原一と宮分境の御霊屋沿い山道を約1kmぐらい登っていった鈴隈山中腹の蜜柑園の中に獣類供養塔があります。幕藩時代この付近は狩猟場だったようです。供養塔は享保14年(1729)に建てられたもので「回向 猪鹿六六〇有余 大小諸畜類之幽魂 業性転滅…享保十四己酉年…」と刻まれています。鍋島家4代藩主・吉茂公年譜によると、享保14年4月9日「為御遊獵川久保御越同日御帰城」とありますので、佐賀本藩主が狩猟を行っていて、この獣類供養塔を建てたのだとされています。



⑪ 中島哀浪師旧宅(坐泉堂)

北原白秋、若山牧水と並ぶ九州三大歌人の一人、中島哀浪師は川久保の生まれ育ちで、終生佐賀を離れず郷土を格調高く詠み続けました。哀浪師は明治16年生まれて、佐賀中学時代より高田保馬、下村湖人らと作歌に励み、早稲田大では牧水らと交流した。家庭の事情で中退した後は帰郷して短歌誌「ひのくに」を主宰。一万首を越す詠草や詩、随筆のほか50有余の校歌作詞など豊かな人情味あふれる風韻は「哀浪調」として日本歌壇にも知られています。



⑫ 妙福寺の大日如来像〔県重文〕

川久保下分の臨済宗東福寺派・妙福寺の本尊は坐高1mを越す「大日如来像」です。平安時代の仏像で、虫食い寄せ木分離などを修復して県重要文化財に指定されている。大日如来は極楽浄土へ行く道の真理を教え導く尊い仏様で、同寺の大日尊縁由略記には「石城山妙楽寺本尊、承德二年(1098)流失、河窪新宮東川底に埋沈、靈夢あって掘り出し元大日に祀る、妙福寺普請の時、本尊として祀る」とあるそうです。同寺は中島哀浪師の菩提寺で、正面入り口左手に代表歌「かきもぐと木にのぼりたる日和なりはろばろとして脊振山みゆ」の歌碑もあります。



⑬ 龍田寺・普賢延命菩薩騎象像〔国重文〕

上和泉の真言律宗龍田寺は鎌倉時代の創建で、ご本尊「普賢延命菩薩騎象像」は通称おふげんさんと呼ばれ、文殊菩薩とともに釈迦の脇仏で寿命を延ばし智慧を授ける尊い仏様です。像高は78cmの松材寄木造り、4頭の白象上の蓮華座に二十臂の普賢延命菩薩が安座されています。台座に「南都興福寺大仏師法眼康俊 正中3年4月〇日」とあり、鎌倉時代の名仏師運慶、快慶に次ぐといわれる康俊の正中3年(1326)の造仏で、昭和32年に国重要文化財に指定されています。同寺では和泉幼稚園、ふたば保育園の運営もされています。



⑭ 久保泉工業団地

佐賀市北部の開発として久保泉工業団地の造成(約50ha)が平成6年に上和泉地区で始まり、一部分譲を開始しました。当初は景気低迷もあって誘致企業がなく、県内企業の進出など紆余曲折もありましたが、13年間で自動車ライト部品製造の小糸九州、半導体関連のJSRマイクロ九州、食品関係のプライムデリカなど16社が進出、約2,000人の人たちが働いています。平成20年度には同団地南西1km弱のコンクリート工場跡地を第2工業団地として造成(5区画6.1ha)、平成22年1月から一部分譲を開始しています。



⑮ 白石原湿原(通称トンボ池)

下和泉一、同二地区にまたがり、佐賀大学農学部農場に隣接する白石原湿原(約19,000平方m)は30種に及ぶトンボを見ることができ、佐賀県内でベッコウトンボの最後の生息地とされています。佐賀市が平成元年から取り組んでいる「トンボ王国さがづくり」事業の一環として、観察デッキや展望原っぱ、木道の遊歩道などが整備されています。トンボのほかにもコガモやカイツブリ、カササギ、ホオジロなど10種類以上の野鳥も生息しています。

